

□7月27日説教(隅野瞳牧師)短縮版

「御言葉を生きる」(マタイ7:15～29)

預言者は神と民の間であって、存在をかけて民と社会に対するメッセージを伝えてきました。真の預言者は迫害を受け、預言が実現するまで長い年月がかかっても、自分の思いではなく神の御心を伝えました。しかしイスラエルの民は、心地よくすぐ実現するような言葉を語る偽預言者に惑わされて、神の道を離れてきました。偽預言者を見分けるには、彼らがどのように生きているかを見ることです。キリストの愛につながる時に私たちにはキリストの命が与えられ、豊かに実を結ぶはずだからです。自分にぶつかってくる人や、声を出せない人を通して主はお語りくださいます。

続いての箇所では、終わりの日に主の御前に出ている人々について語られます。信心深いふるまいや、御名による伝道や奉仕によって、天の国に入れるのではありません。私たちが「主」とお呼びする、それは「私はあなたの僕です」という告白です。聖なる全知全能の方でありながら、御子をお与えになるほどに私たちを愛してくださる神を、私たちは愛と畏れをもって「主」とお呼びします。もし私が同じ主の御前に立たされたなら、自分なりに一生懸命仕えてまいりましたが、すべてにおいて足りない者でしたとうなだれるしかありません。けれども主は、そのような実績で私たちを評価して救うのではないのです。ただ一人御心を完全に行われた御子を信じるなら、私たちの罪は赦され、御心を行った者と見なしていただけます。

最後に主は、御言葉を聞いて行う人とそうでない人の人生を、二つの家のたとえで語られました。岩というのは揺るがぬ方である神・キリストであり、さらにその御言葉を聞いて行うことです。砂は移り変わるこの世のものを指しています。自分のがんに信仰の土台を置いているならば、必ず倒れます。けれども主は、倒れてはじめて土台から建て直すことができるのだと、そのようなご計画をもって私たちを新しくしてくださるのです。あなたが手を離しても、あなたは私の祈りの手の中にある。あなたのために私は十字架につき、復活する。だからあなたは立ち直って、今度は同じように倒れている兄弟たちを立ち上げらせ、罪からの救いを伝える器になれるのだと。私たちは一人で岩の上に家を建てて、嵐に耐えるのではありません。岩なるキリスト、そして教会の兄姉の祈りによって信仰が支えられています。御言葉を生きる者になりたいという思いが与えられたなら、それを成させてくださる主を信じてお従いしましょう。(終)